

## ため池散歩

水辺の人々

11



### ビオトープ自由ヶ丘

シバナは川口や干潟な

九州共立大教授  
成富 勝さん (54) = 八幡西区自由ヶ丘



ビオトープの池の端に干潟をつくり、シバナを育てる成富教授

### サギやカワセミも飛来

ビオトープ自由ヶ丘は生きものが生息し、人間が楽しめる空間を目指し2004年、成富教授が中心となって九州共立大学の敷地内にあるぼた山などの4千杉の遊休地に遊歩道などを整備。06年には池と田んぼを造った。田んぼには冬場も水を張り、昆虫や魚などの生息空間として管理。絶滅が危ぶまれる貴重な植物や生物の保護、繁殖に力を注いでいる。

現在カエルや魚を餌とするサギやカワセミなど珍しい野鳥が飛来するほか、タヌキ、キジなども生息。敷地内には風力、太陽光ハイブリッド型発電システムが設置され、管理に必要な電力は、これらのクリーンエネルギーでまかなっている。

シバナは川口や干潟などの塩分を含む湿地に生える多年草。長さ10〜40センチで、薄黄緑色の花が咲きます。2004年、NPO法人「北九州ビオトープ・ネットワーク研究会」の活動の一環で、干潟を清掃していた時でし汚染されました。時代が変遷する中、数を減らした

たってきたのが、北九州「ビオトープ自由ヶ丘」に多いため池です。しかし、そのため池も、フラスクパスなどの外来種が放流されたことや、管理をせずにヘドロが堆積し、例えば水生昆虫「タガメ」などは、見なくなりました。

# 生物が命つなぐ場に

八幡西区の洞海湾奥部本城橋の東側にある干潟で、環境省から絶滅危惧2種に指定されている野草「シバナ」が、ひっそりと自生しています。この希少な植物を守るため、種を採取し、大学内にあるビオトープ(人工的な生物の生息空間)で増殖させて干潟に戻す活動を続けています。

シバナは川口や干潟などの塩分を含む湿地に生える多年草。長さ10〜40センチで、薄黄緑色の花が咲きます。2004年、NPO法人「北九州ビオトープ・ネットワーク研究会」の活動の一環で、干潟を清掃していた時でし汚染されました。時代が変遷する中、数を減らした。散乱するペットボトルやカップラーメンの容器の隣に、ポツポツと群生しているのを見つけたんです。

かつてシバナは、洞海湾